

学年別 教科に関する調査結果考察資料  
中学校

調査実施日 令和4年4月14日（木）

# 中1 国語

## 「思考・判断・表現」が良好である

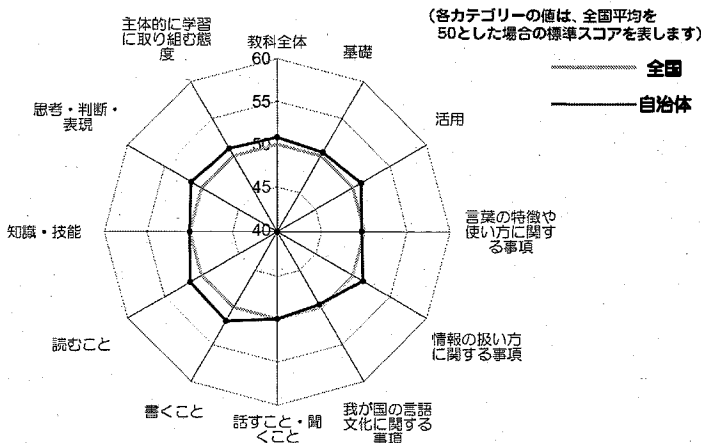
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		68.5	70.0	★
基礎		70.3	71.2	★
活用		65.6	68.0	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.4	68.7	★
	情報の扱い方に関する事項	72.1	77.1	★
	我が国の言語文化に関する事項	68.5	66.6	★
	話すこと・聞くこと	64.6	64.6	★
	書くこと	67.7	74.5	★
観点別	読むこと	70.0	74.2	★
	知識・技能	69.8	69.9	★
	思考・判断・表現	67.4	70.7	★
	主体的に学習に取り組む態度	64.8	68.0	★

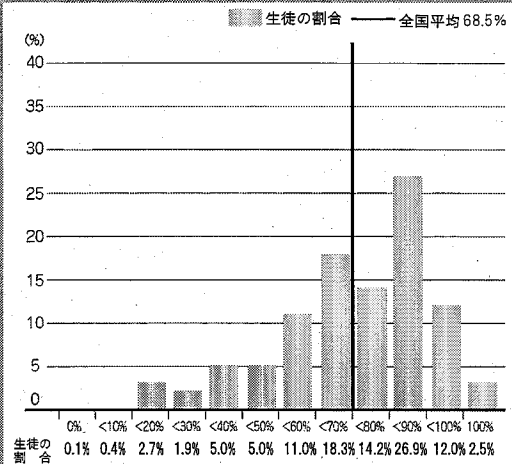
### 分析 コメント

- 中1国語は、教科全体の正答率が70.0%
- で、全国平均正答率を1.5ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「思考・判断・表現」が70.7%で、全国平均
- 正答率を3.3ポイント上回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい> 小学校で学習した漢字を正しく書いている。

全国平均 53.8% 正答率 47.1% 差 ▲6.7 点

**指導のポイント** 漢字に習熟させるためには、日頃から生徒が漢字に触れる機会をできるだけ増やす必要がある。特に漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる習慣を身に付けていくことが重要となる。文脈に即して漢字を適切に用いることができるよう、授業において意図的に取り上げるなどの工夫をしながら、学習させることが大切である。

### 身近な地域について調べて発表する

大問6(3)

<ねらい> 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。

全国平均 62.3% 正答率 57.2% 差 ▲5.1 点

**指導のポイント** 【資料A】と【資料B】を比較すると、【資料A】には学校周辺の坂とその名前が描かれているのに対して、【資料B】には坂の名前の由来に関するイラストが描かれている。その違いを押さえた上で、【発表の様子】の3段落目を読んでいくと、【資料B】は、「田中さん」が坂の名前から昔の地域の様子を想像したものであることが分かる。そうした説明が空欄に入るように、条件1～3に即して書く。効果的なプレゼンのためには、資料の活用は重要である。その際に、資料活用の目的、タイミングなどについて、全体のプレゼンの流れの中での確認が必要となる。

# 中1 数学

## 「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

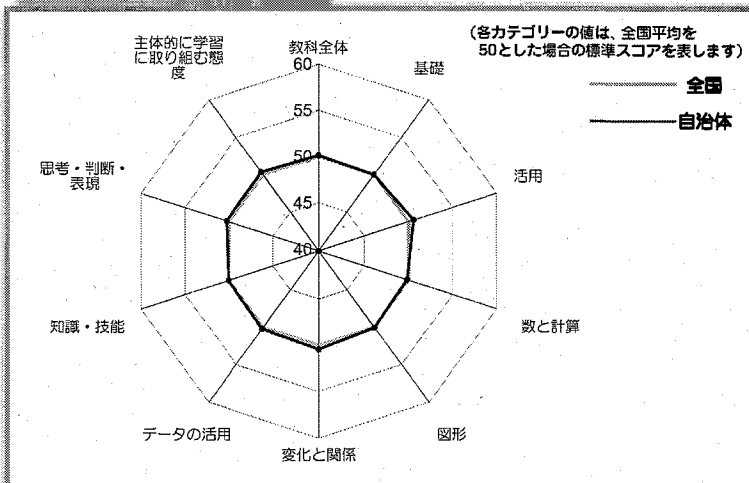
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	
教科全体		71.5	71.7	★
基礎		72.4	72.4	★
活用		67.3	68.9	★
領域別	数と計算	76.5	76.2	★
	図形	77.2	77.3	★
	変化と関係	66.5	67.6	★
	データの活用	62.3	62.8	★
	知識・技能	71.9	72.0	★
観点別	思考・判断・表現	70.0	70.7	★
	主体的に学習に取り組む態度	64.0	64.8	★

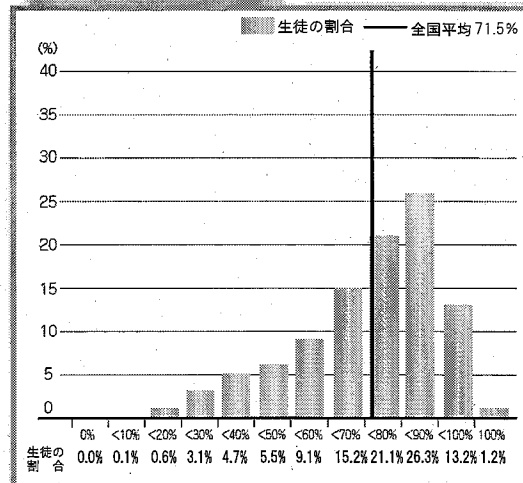
### 分析 コメント

- 中1数学は、教科全体の正答率が71.7%
- で、全国平均正答率を0.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が64.8%
- で、全国平均正答率を0.8ポイント上回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 平均・場合の数

大問14(2)

〈ねらい〉 5色のハンカチの選び方が何通りあるかを求める図について、誤りを指摘することができる。

全国平均 62.2% 正答率 55.2% 差 ▲7.0 ㊦

**指導のポイント** 誤答の原因としては、樹形図を正しく作れないことなどが考えられる。樹形図を作り、起こり得るすべての場合を、落ちや重なりがないように数え上げるよう指導することが大切である。場合の数では、「AB」「BA」を数える場合と、「AB」を数えたら、「BA」は重複として数えない場合があるので、何が問われているのかをよく確認して、正しく図や表をかくことができるように練習を積ませることが必要である。

### 小数・分数の計算

大問2

〈ねらい〉 整数÷分数に関する文章題の正しい式を選択することができる。

全国平均 55.0% 正答率 50.1% 差 ▲4.9 ㊦

**指導のポイント** 本問の5/4という分数は割合を表している。割合については小学校第5学年で学習し、倍と割合を統合的に考える指導を行ってきた。倍や割合の指導においても、数直線は大切な道具となり、数直線に数量の関係を表すことで、問題解決を図ることができることを確認させたい。また、分数の乗法や除法も既に学習しているので、割合を小数ではなく分数で表す方法も取り入れて指導することが有効である。

# 中1 理科

## 「知識・技能」の定着に課題が残る

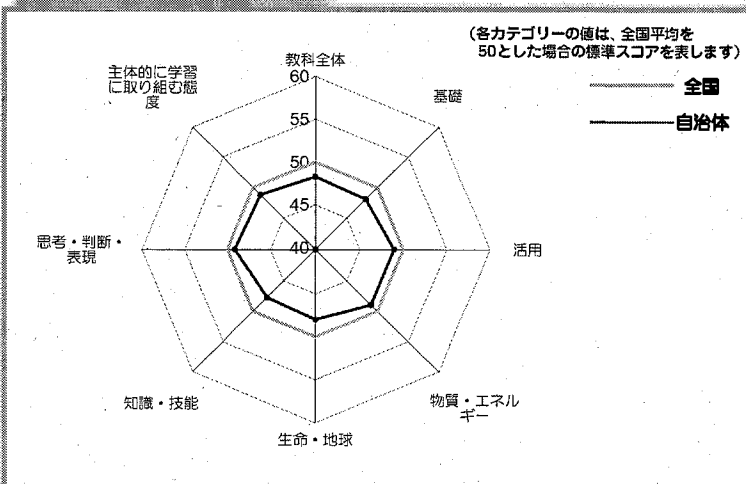
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		67.4	64.2	★
基礎		69.4	65.9	★
活用		62.0	59.5	★
領域別	物質・エネルギー	72.9	70.8	★
	生命・地球	62.9	58.6	★
観点別	知識・技能	69.1	64.8	★
	思考・判断・表現	65.4	63.4	★
	主体的に学習に取り組む態度	66.8	63.9	★

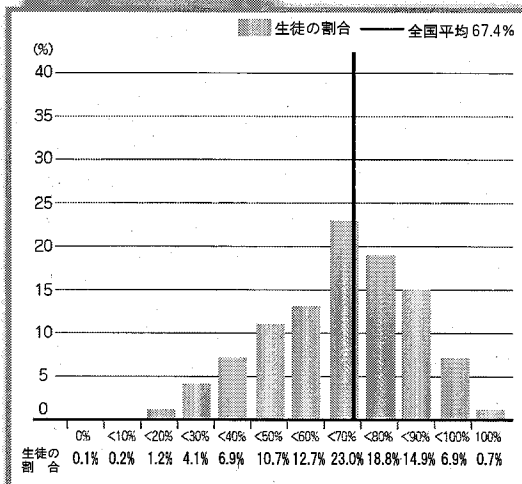
### 分析 コメント

- 中1理科は、教科全体の正答率が64.2%
- で、全国平均正答率を3.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に届かなかった。中でも、「知識・技能」が64.8%で、全国平均正答
- 率を4.3ポイント下回った。

### カテゴリ間比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 植物のつくりとはたらき

大問5(2)

<ねらい> 植物が葉から水蒸気を出すはたらきを、「蒸散」ということを理解している。

全国平均 44.5% 正答率 31.6% 差 ▲12.9 ポイント

**指導のポイント** 葉をちぎって、裏側の薄い皮をはがし、水蒸気が出ていく穴（気孔）を顕微鏡で観察させる。その際、表側の薄い皮も観察することができるのであれば、表側と裏側の気孔の数を比較させ、一般に葉の裏側の方が気孔の数が多いうことを生徒に発見させたい。時間がない場合は、事前に教師がプレパラートを準備しておき、検鏡だけさせてもよい。これらを踏まえ、植物の体の中の水が、水蒸気になって気孔から出ていくことを、科学的な用語である「蒸散」を使用して説明できるようにさせる必要がある。

### 大地のつくりと変化

大問8(1)

<ねらい> 岩石のでき方を理解している。

全国平均 53.8% 正答率 43.8% 差 ▲10.0 ポイント

**指導のポイント** 堆積岩を観察する機会が不十分であることや、岩石の用語をしっかりと記憶していないことが課題であると考えられる。堆積岩をただ見せるのではなく、水で濡らして岩石面を見やすいように工夫するなどして、何が固まったものかに気付かせることが大切である。岩石の名前は日常生活ではあまり使われないため、生物由来のもの、火山由来のもの、それ以外の堆積物が粒の大きさによって分類されるものなど、整理した形で理解させるとよい。

## 「知識・技能」の定着に課題が残る

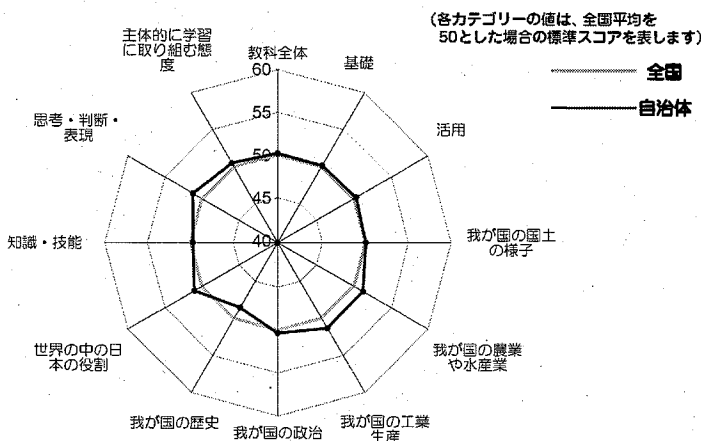
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		65.0	65.4	★
基礎		68.1	68.4	★
活用		55.2	55.9	★
領域別	我が国の国土の様子	73.6	73.7	★
	我が国の農業や水産業	57.3	60.5	★
	我が国の工業生産	67.2	70.8	★
	我が国の政治	74.7	75.8	★
	我が国の歴史	64.9	61.8	★
観点別	世界の中の日本の役割	58.3	61.1	★
	知識・技能	67.9	67.3	★
	思考・判断・表現	59.0	61.6	★
	主体的に学習に取り組む態度	56.9	58.1	★

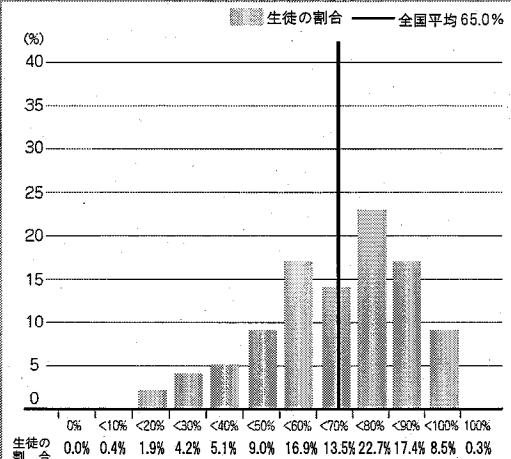
### 分析 コメント

- 中1社会は、教科全体の正答率が65.4%
- で、全国平均正答率を0.4ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が61.6%で、全国平均正答率を2.6ポイント上回った。一方、「知識・技能」が67.3%で、全国平均正答率を0.6ポイント下回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



### ★ 課題となる小問 ★

#### 天皇中心の国づくり

大問5(1)②

<ねらい> 聖徳太子の行った政策について、理解している。

全国平均 57.2% 正答率 50.3% 差 ▲6.9 点

**指導のポイント** 本問は、聖徳太子の業績について扱っているが、聖徳太子を中心とした国づくりや仏教、蘇我氏との関係について整理できていない生徒が多いと考えられる。キーワードは「聖徳太子」「蘇我氏」「遣隋使」である。調べ学習を通して、聖徳太子など、歴史上の重要人物についての理解を深めさせるとともに、教師がその人物のもつさまざまなエピソードに触れることも大切である。

#### 世界の中の日本

大問8(3)①

<ねらい> 国際連合について理解している。

全国平均 34.7% 正答率 31.8% 差 ▲2.9 点

**指導のポイント** 国際連合(国連)は、世界の平和と安全を守り、人々の暮らしをより良いものにするために生まれたことや、国連には、ユニセフやユネスコなど、目的に応じたたくさんの機関があることについて確認しておきたい。生徒にとって身近なユニセフの募金活動や、ユネスコの世界遺産を守る活動などを取り上げ、具体的に指導する必要がある。生徒が使用した小学校第6学年の教科書を見直させ、学習内容を確認させるとともに、中学校第3学年の公民的分野「国際連合の働き」の学習につなげていけるとよい。

# 中1 英語A

## 「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

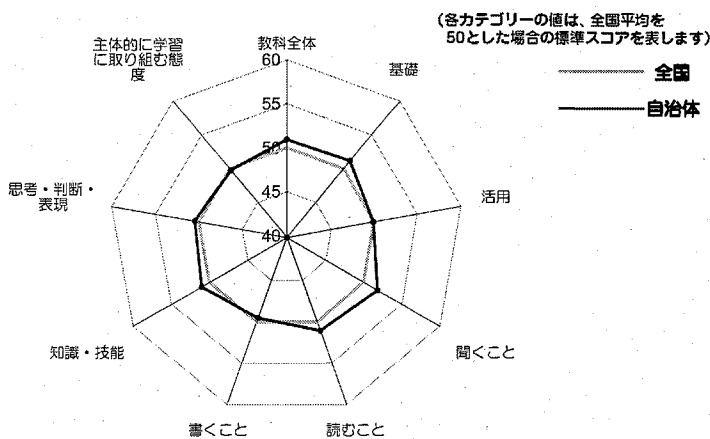
### 正答率一覧

(単位%)	★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		85.5	86.7	★
基礎		84.5	86.1	★
活用		88.9	88.8	★
領域別	聞くこと	82.1	84.7	★
	読むこと	87.7	89.5	★
	書くこと	87.6	86.9	★
観点別	知識・技能	83.0	84.5	★
	思考・判断・表現	89.9	90.6	★
	主体的に学習に取り組む態度	93.0	92.6	★

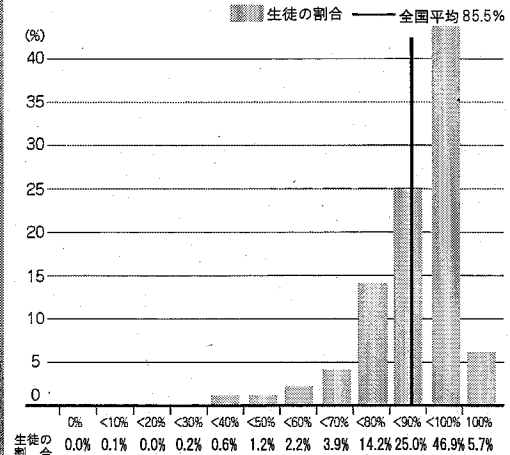
### 分析 コメント

- 中1英語Aは、教科全体の正答率が86.7%で、全国平均正答率を1.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が84.5%で、全国平均正答率を1.5ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が92.6%で、全国平均正答率を0.4ポイント下回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### アルファベットの書き(聞く)

大問3(4)

<ねらい> 音声を読み、活字体の小文字を正しく書いている。(m)

全国平均 53.4% 正答率 46.9% 差 ▲6.5 点

**指導のポイント** 聞き取ったアルファベットを書く問題である。アルファベットの学習では、日頃から、文字と音をセットでインプットすることを意識させることが大切である。また、本問では、アルファベットの大文字と小文字について正確に理解していることが必要となる。上に大文字、下に小文字、あるいは左に大文字、右に小文字が書かれたカードやプリントを準備して、一文字一文字の大文字と小文字をリンクさせたい。特に、形が似ているものや間違えやすいものについては、整理させて繰り返し確認させるとよい。

### 英作文

大問15

<ねらい> 例文と語群を参考にしながら、自分が入りたい部活動について、自己紹介の文を書いている。

全国平均 91.4% 正答率 90.1% 差 ▲1.3 点

**指導のポイント** 「あなたがこれからしたいこと(なりたいもの)」というテーマで、自己紹介する文を作る問題である。ここでは、B群から自分の入りたい部活動を選ぶ必要がある。選択肢の部活動は、単語1語のものだけでなく、2語又は3語のものが多い。書き写す時に、単語の間を空ける習慣が身に付いていないと、つなげて書いてしまうこともあるので、日頃から、単語と単語の間のスペースを意識して書き写すように指導しておくことが大切である。

# 中2 国語

## 「思考・判断・表現」が良好である

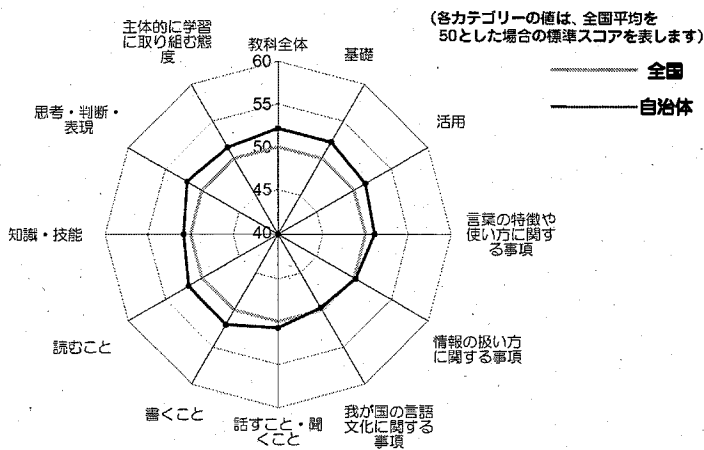
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		66.8	70.7	★
基礎		69.3	73.3	★
活用		62.2	65.7	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.9	73.1	★
	情報の扱い方に関する事項	78.7	79.5	★
	我が国の言語文化に関する事項	83.8	82.7	★
	話すこと・聞くこと	64.8	67.0	★
	書くこと	65.0	71.1	★
	読むこと	61.1	66.4	★
観点別	知識・技能	73.2	75.0	★
	思考・判断・表現	63.5	68.6	★
	主体的に学習に取り組む態度	56.3	61.3	★

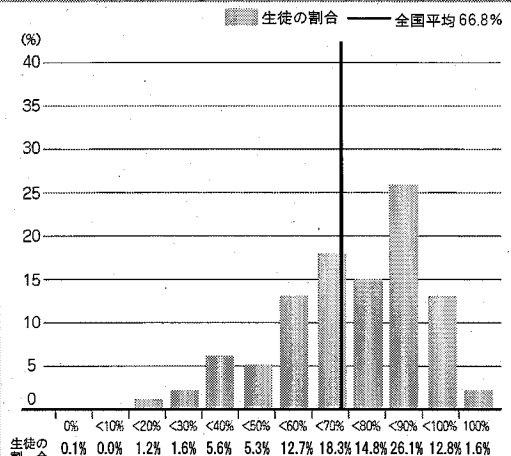
### 分析 コメント

- 中2国語は、教科全体の正答率が70.7%
- で、全国平均正答率を3.9ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が68.6%で、全国平均正答率を5.1ポイント上回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 文法・語句に関する事項

大問3(1)

<ねらい> 文節について理解している。

全国平均 75.3% 正答率 69.0% 差 ▲6.3 ㊦

**指導のポイント** 文を文節に区切ったときに、上から5番目になる文節を抜き出す問題である。文節や単語そのものについて十分に理解していなければ、文を正しく文節に分けることはできない。文を文節に分けることを形式的に指導するのではなく、自立語と付属語の大別、品詞の分類など、それぞれの単語の性質や働きも含めて理解させることが大切である。

### 話し合いの内容を聞き取る

大問1(3)

<ねらい> 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。

全国平均 40.8% 正答率 39.2% 差 ▲1.6 ㊦

**指導のポイント** 話し合いの参加者が押さえておかななくてはならないことは、話し合いの目的と、その到達点である。ここでは、ボランティア活動に参加する生徒を増やすための具体的な対策を決めることが到達点になる。話し合いでは、「活動の情報を、全校生徒にもっと知らせる」ことに全員が賛成しており、上野さんは、【話し合いの様子】の資料4を基に、「どのような方法で知らせるか」について述べようとしている。話し合いで説得力のある意見を述べるためには、話し合いの中で出された意見どうしを結び付けたり、関連する情報を根拠にしたりとよい。

# 中2 数学

## 「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

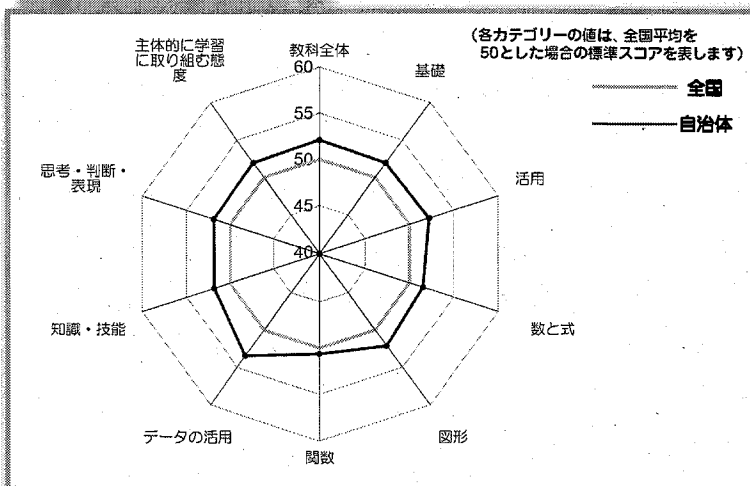
### 正答率一覧

		全国平均	自治体	(%)
教科全体		64.9	69.7	★
基礎		68.6	73.0	★
活用		51.3	57.4	★
領域別	数と式	69.3	73.2	★
	図形	66.3	71.5	★
	関数	64.4	66.3	★
	データの活用	53.3	61.9	★
	知識・技能	66.8	71.5	★
観点別	思考・判断・表現	60.4	65.3	★
	主体的に学習に取り組む態度	52.0	57.2	★

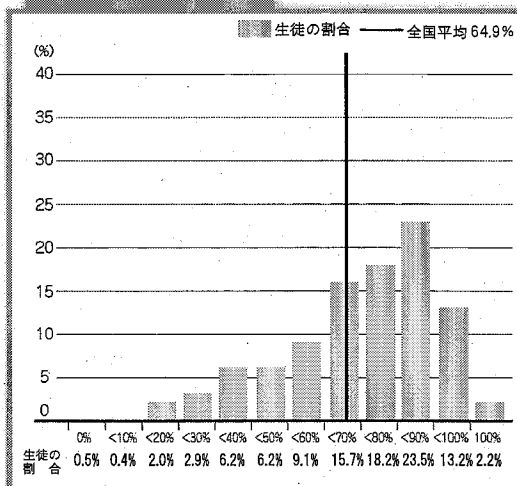
### 分析 コメント

- 中2数学は、教科全体の正答率が69.7%
- で、全国平均正答率を4.8ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が57.2%
- で、全国平均正答率を5.2ポイント上回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 正の数・負の数

大問5(5)

<ねらい> 正負の数の四則混合の計算ができる。

全国平均 64.9% 正答率 60.8% 差 ▲4.1 割

**指導のポイント** 誤答の主な原因としては、正負の数の四則混合の計算に習熟していないことが考えられる。具体的には、加法を除法より先に計算してしまう計算順序の間違いや、除法の符号の間違い、負の数の加法の間違いなどである。四則の混合した計算では、加法、減法より先に乗法、除法を計算することを確認させたい。また、正負の数の乗法・除法のみの計算と加法・減法のみの計算について、それぞれ別々に練習させ、正しく計算できているかを確認することも必要である。

### データの散らばりと代表値

大問23(2)

<ねらい> 問題文の表やヒストグラムを正しく読み取ることができる。

全国平均 36.8% 正答率 33.8% 差 ▲3.0 割

**指導のポイント** これまで学習してきた、データをまとめる際に使う用語の意味をきちんと理解していないことが考えられる。指導としては、一連の統計的な問題解決の学習過程を経験させながら、用語の意味を理解させるとよい。具体的には、日常生活を題材とした問題などを取り上げて、それを解決するために計画を立て、必要なデータを収集し、コンピュータなどを利用してヒストグラムなどを作成したり相対度数などを求めたりしてデータの傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断する。その際、必要な用語などに注意しながら指導することが必要となる。



# 中2 理科

## 「知識・技能」の定着に課題が残る

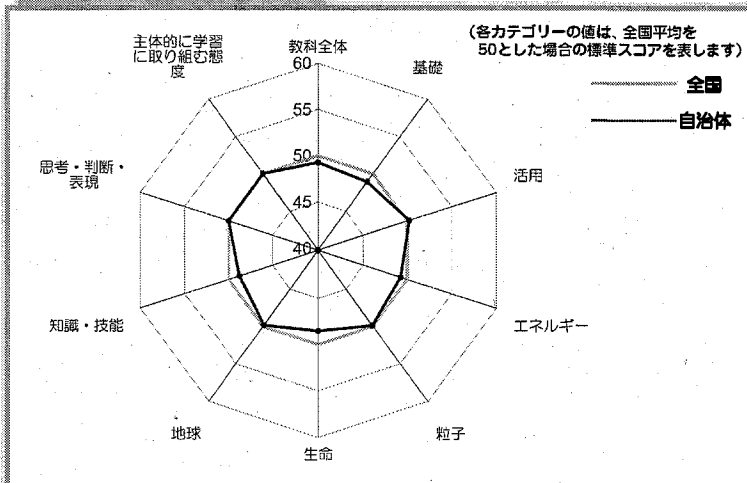
### 正答率一覧

		全国平均	自治体	(%)
領域別	教科全体	64.1	62.6	★
	基礎	67.1	65.0	★
	活用	55.5	56.1	★
	エネルギー	51.9	50.3	★
	粒子	62.6	62.2	★
	生命	71.2	67.4	★
	地球	71.1	70.6	★
観点別	知識・技能	70.0	67.1	★
	思考・判断・表現	58.1	58.1	★
	主体的に学習に取り組む態度	60.6	60.6	★

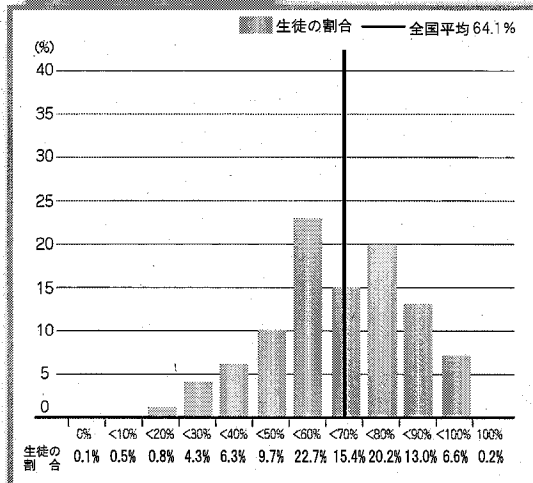
### 分析 コメント

- 中2理科は、教科全体の正答率が62.6%
- で、全国平均正答率を1.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が60.6%で、全国平均正答率と同等であった。一方、「知識・技能」が67.1%で、全国平均正答率を2.9ポイント下回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 動物の分類

大問3(1)

<ねらい> 無セキツイ動物について理解している。

全国平均 72.3% 正答率 56.7% 差 ▲15.6 ㊦

**指導のポイント** 無セキツイ動物は、背骨がない点でセキツイ動物と異なるが、筋肉を使って体を動かすことや、胃などの内臓がある点でセキツイ動物と共通することを押さえさせる必要がある。また、無セキツイ動物は、節足動物（昆虫類、甲殻類など）や軟体動物などに分類されることについても確認させたい。分類が分かりにくい動物に関しては、授業の中で意識して取り上げておくとよい。動物の体のつくりと働きの特徴を基に、分類の観点を分かりやすくまとめて、整理させることが大切である。

### 火山

大問10(1)

<ねらい> 火山岩のつくりを、「斑状組織」ということを理解している。

全国平均 51.1% 正答率 38.5% 差 ▲12.6 ㊦

**指導のポイント** 火成岩、火山岩、深成岩についての知識が不足していると考えられる。岩石の学習では、いろいろな岩石の名前や用語を覚える必要があるため、それらを整理した形で提示することが大切である。火成岩はできる過程の違いで火山岩と深成岩に分けられること、また、火山岩のつくりを「斑状組織」、深成岩のつくりを「等粒状組織」ということを確認させたい。

# 中2 地歴

## 「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

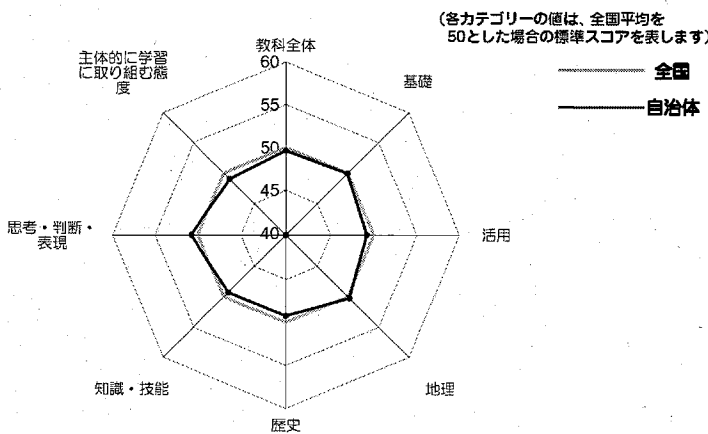
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		56.6	55.9	★
基礎		59.0	58.9	★
活用		50.6	48.4	★
領域別	地理	52.2	52.7	★
	歴史	61.1	59.2	★
観点別	知識・技能	58.1	56.6	★
	思考・判断・表現	52.2	54.0	★
	主体的に学習に取り組む態度	50.6	48.4	★

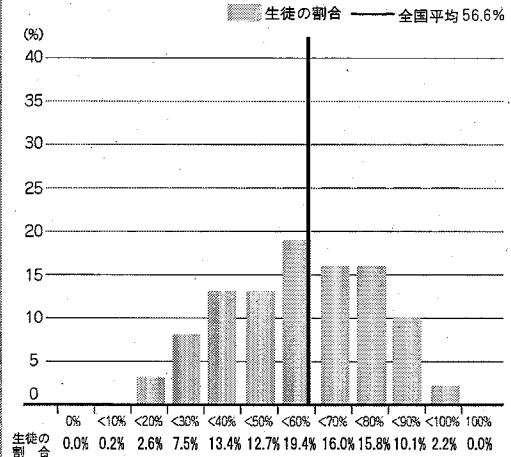
### 分析 コメント

- 中2地歴は、教科全体の正答率が55.9%
- で、全国平均正答率を0.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が54.0%で、全国平均正答率を1.8ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が48.4%で、全国平均正答率を2.2ポイント下回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 世界各地の人々の生活と環境

大問3(3)

<ねらい> 世界各地の人々が住む家のつくりについて資料をもとに考察し、表現している。

全国平均 22.1% 正答率 14.1% 差 ▲8.0 点

**指導のポイント** 世界の人々の生活を考えさせるには、衣類や住居、食事などを主な視点とし、地形や気候などと関連付けて考えるように指導することが大切である。住居の構造は、防寒や防熱への対応や、その地域で得られる材料が要因となって決定される。また、居住地区決定においては、水利が最優先であり、ほかには他民族等との交流や侵略防止、信仰などが要因となっている。写真資料などを活用し、世界のさまざまな家の起源を考えさせたい。

### 世界の諸地域

大問4(6)

<ねらい> オーストラリアの鉄工業に関する理解をもとに、資料を読み取っている。

全国平均 25.0% 正答率 17.4% 差 ▲7.6 点

**指導のポイント** オーストラリアが、鉄産資源に恵まれている国であることを押さえさせたい。この点について、鉄産資源の分布図を使い、東部には石炭の産地、北西部には鉄鉱石の産地があることを確認させることが大切である。また、鉄業が重要な輸出産業になっていることを、オーストラリアの輸出品の変化を示す統計資料などを活用して確認させることも重要である。

# 中2 英語A

## 「思考・判断・表現」が良好である

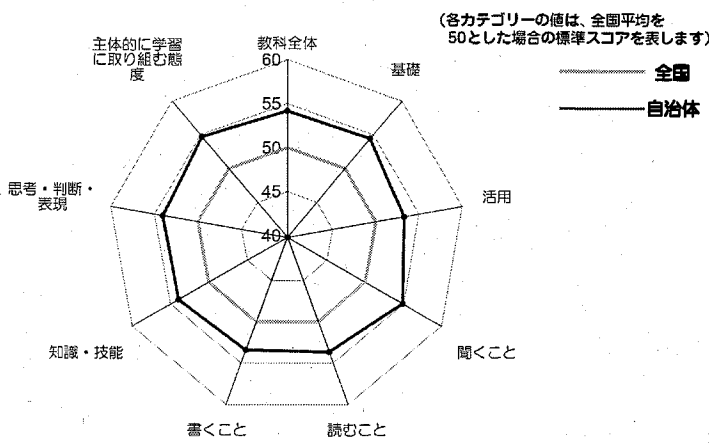
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均		自治体		(%)
教科全体	63.1	72.9	★			
基礎	65.6	75.4	★			
活用	57.8	67.3	★			
領域別	聞くこと	69.1	79.8	★		
	読むこと	59.7	68.6	★		
	書くこと	62.6	72.7	★		
観点別	知識・技能	70.5	78.9	★		
	思考・判断・表現	49.0	61.5	★		
	主体的に学習に取り組む態度	62.6	73.8	★		

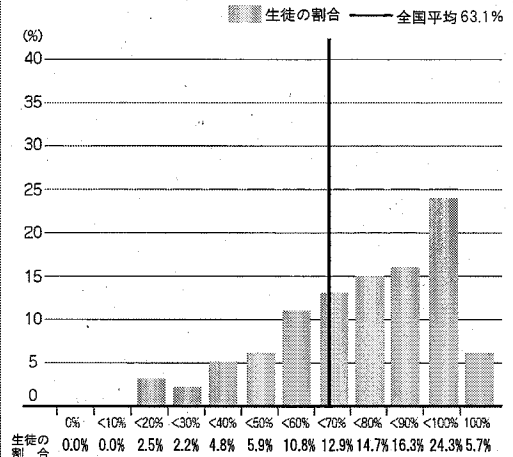
### 分析 コメント

- 中2英語Aは、教科全体の正答率が72.9%
- で、全国平均正答率を9.8ポイント上回
- った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「思考・判断・表現」が61.5%で、全国平
- 均正答率を12.5ポイント上回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

リスニング(さまざまな英文の聞き取り)

大問3

<ねらい> 日常的な話題についての英文を聞き、概要を捉えている。

全国平均 96.2% 正答率 96.5% 差 0.3 割

**指導のポイント** picture, Bob, soccer, mother, Japanese food, English books, English songsなどのキーワードを聞き取ることができれば、正答するのが難しい問題ではないが、このような形式の問題に慣れておらず、戸惑う生徒も多いことが想定される。授業では、スピーチ活動を行い、絵や小道具などのvisual aidsを用いて発表活動をさせることや、教科書本文を暗記して絵を示しながら再生するstory reproductionのような活動を取り入れていきたい。そうすることによって、絵や写真を提示しながら発表することに慣れさせていくと、本問のような問題に答えるイメージが生まれてくると考えられる。

語形・語法の知識・理解

大問6(1)②

<ねらい> 対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(現在進行形)

全国平均 76.4% 正答率 80.5% 差 4.1 割

**指導のポイント** 本問のような語形・語法の問題において正答が得られないのは、日頃からの練習の不足を意味している。文法導入が終わった後は、練習(パターンプラクティス)が不可欠である。現在形の英文を現在進行形に直すという流れを、パターンプラクティスによって何度も口頭練習させる必要がある。口頭練習の後は、ドリル問題を使用し、書くことによって、その表現が定着しているかを確認することが大切である。

## 「知識・技能」が良好である

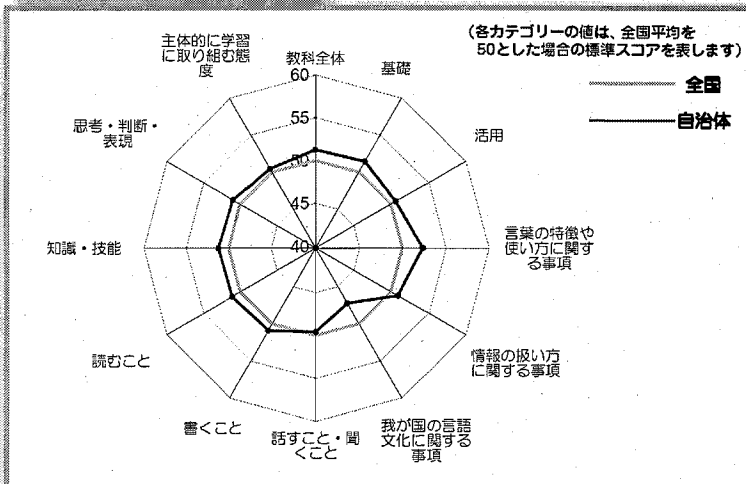
### 正答率一覧

(単位%)	★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体	68.9	71.2		★
基礎	69.5	72.1		★
活用	67.8	69.4		★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.6	69.8	★
	情報の扱い方に関する事項	60.7	63.3	★
	我が国の言語文化に関する事項	85.0	76.2	★
	話すこと・聞くこと	76.6	75.5	★
	書くこと	70.8	74.2	★
観点別	読むこと	66.2	68.7	★
	知識・技能	66.3	68.9	★
	思考・判断・表現	69.3	71.4	★
	主体的に学習に取り組む態度	60.7	62.1	★

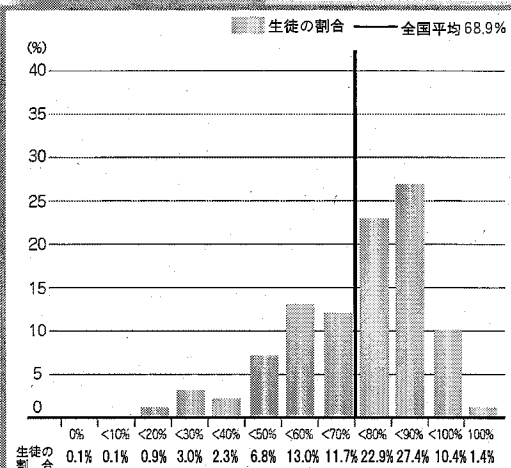
### 分析 コメント

- 中3国語は、教科全体の正答率が71.2%
- で、全国平均正答率を2.3ポイント上回
- った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「知識・技能」が68.9%で、全国平均正答
- 率を2.6ポイント上回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 文法・語句に関する事項

大問3(4)①

<ねらい> 歴史的仮名遣いについて理解している。

全国平均 77.8% 正答率 61.8% 差 ▲16.0 ㊦

**指導のポイント** 歴史的仮名遣いで書かれている古文に対して抵抗感大きい生徒は、現代語訳があっても、それと対照しながら読むことがうまくできず、文語のきまりも定着しない場合が多い。少しでも古文に親しませていくことを考えていきたい。なお、学習指導要領では、伝統的な言語文化に関する指導が重視されているため、以前は中学校で扱っていた作品を、小学校において学習する場合もある。そうした点も考慮し、中学校では更に幅広く古典に親しめるような教材を取り上げていくように心がけたい。

### 制服を洗う方法について調べる

大問6(1)①

<ねらい> 文章と図表を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。

全国平均 88.7% 正答率 81.8% 差 ▲6.9 ㊦

**指導のポイント** 本問では、図表の入った二つの資料と会話文を読み比べて、必要な情報を取り出すことが必要となる。まず、山崎さんと内村さんの会話を読み、「ドライクリーニング」と「家で水洗いする場合」とを比較していることを押さえる。それを踏まえて、【資料A】と【資料B】に書かれたそれぞれの洗濯方法の相違点に着目することで、二つの方法の大きな違いについて理解すればよい。このように複数の資料を比較して必要な情報を読み取る場合は、どの資料から何を読み取るのかを意識した上で読み取ることが重要である。

# 中3 数学

## 「思考・判断・表現」が良好である

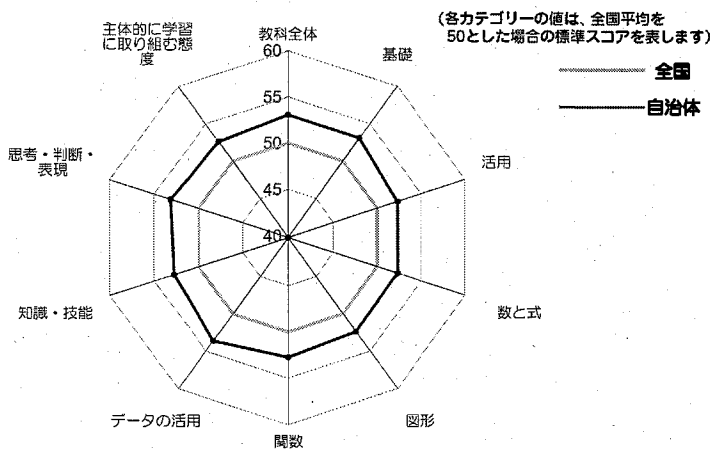
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		63.0	70.1	★
基礎		66.0	73.1	★
活用		47.6	54.6	★
領域別	数と式	67.7	73.6	★
	図形	65.4	71.6	★
	関数	54.2	61.6	★
	データの活用	66.3	76.4	★
観点別	知識・技能	66.0	72.9	★
	思考・判断・表現	50.1	58.3	★
	主体的に学習に取り組む態度	52.6	59.5	★

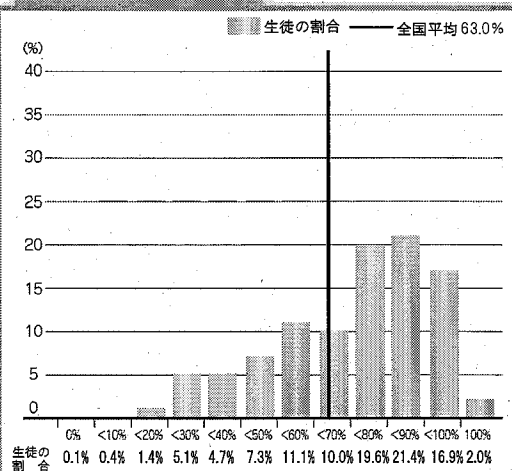
### 分析 コメント

- 中3数学は、教科全体の正答率が70.1%
- で、全国平均正答率を7.1ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「思考・判断・表現」が58.3%で、全国平均正答率を8.2ポイント上回った。

### カテゴリー間の比較



### 正答率度数分布



### ★ 課題となる小問 ★

#### 式の計算

大問2

<ねらい> 2つの文字を含む式を整理して、式の値を求めることができる。

全国平均 76.2% 正答率 78.6% 差 2.4 ポイント

**指導のポイント** 式の値を求める際には、文字の値として与えられた数値を式に代入すればよい。しかし、本問のように与えられた式が計算できる場合は、まず式を計算し、文字の数を少なくするなどの工夫が必要となる。特に、与えられた数値が分数の場合は、このような工夫がなおさら必要となることを理解させたい。式の値を求めるという目的に応じて、どうすれば簡単に計算ができるかを考えさせるなど、日々の授業の中でしっかりと思考させながら取り組ませる指導が求められる。

#### 1次関数

大問20(1)

<ねらい> 1次関数のグラフから、ばねがのびた長さを読み取ることができる。

全国平均 52.2% 正答率 55.7% 差 3.5 ポイント

**指導のポイント** 本問は、ばねにおもりをつるしたときの、ばねが伸びる長さを求める問題であるが、ばね全体の長さを求めてしまう誤答が見られた。これは、グラフの傾き(変化の割合)と増加量についての理解が十分でないためであると考えられる。ばねが伸びた長さ(yの増加量)を求めるだけでなく、xの値がaのときのyの値を求める問題との違いについても確認させる必要がある。

# 中3 理科

## 「知識・技能」の定着に課題が残る

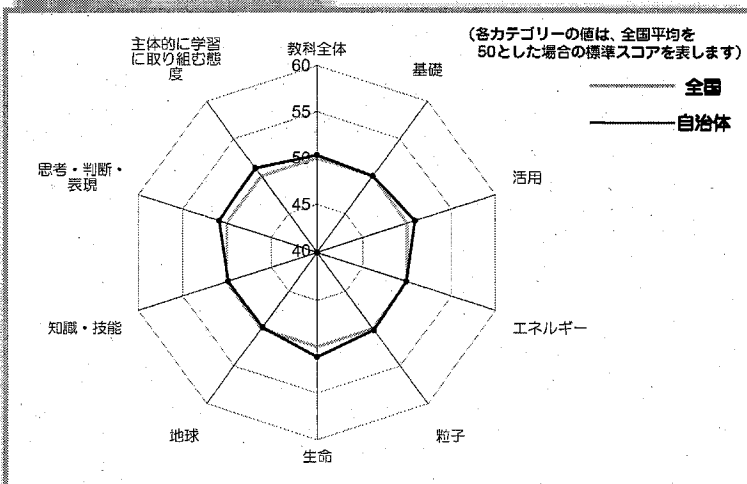
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		60.6	61.3	★
基礎		63.1	63.1	★
活用		54.6	56.9	★
領域別	エネルギー	65.4	65.2	★
	粒子	53.5	53.9	★
	生命	67.8	70.8	★
	地球	52.8	52.3	★
観点別	知識・技能	62.3	61.9	★
	思考・判断・表現	58.5	60.5	★
	主体的に学習に取り組む態度	56.9	59.2	★

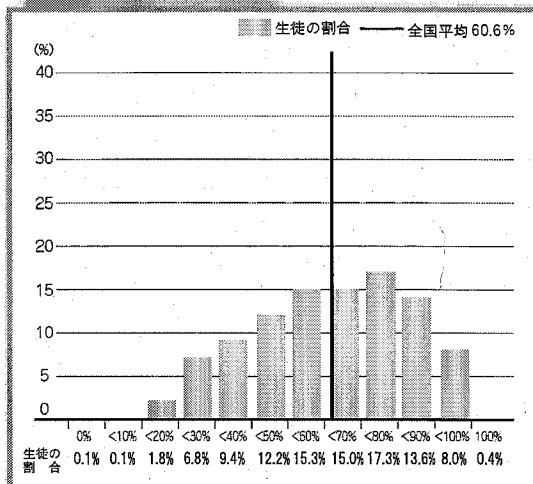
### 分析 コメント

- 中3理科は、教科全体の正答率が61.3%
- で、全国平均正答率を0.7ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が59.2%で、全国平均正答率を2.3ポイント上回った。一方、「知識・技能」が61.9%で、全国平均正答率を0.4ポイント下回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



### ★ 課題となる小問 ★

#### 電流と磁界

大問11(3)

<ねらい> コイルの中の磁界が変化すると、コイルに電圧が生じる現象を、「電磁誘導」ということを理解している。

全国平均 49.9% 正答率 44.7% 差 ▲5.2 割

**指導のポイント** 「電磁誘導」に限らないが、用語を記述させる問題の正答率は、総じて低い傾向にある。習得した科学用語を適切に使い、自然現象を説明させる活動を積極的に取り入れたい。また、無解答を減らすためにも、日頃から書く習慣を身に付けさせることが大切である。

#### 前線の通過と天気の変化

大問8(1)

<ねらい> 前線の構造を理解している。

全国平均 52.7% 正答率 47.7% 差 ▲5.0 割

**指導のポイント** 本問では、①寒冷前線は、寒気が暖気に流入することで起こること、②寒気は暖気よりも密度が大きいため、暖気の下に潜り込み、暖気を押し上げながら進むことを押さえさせる。温暖前線と寒冷前線については、天気図に、前線付近にできる雲（乱層雲と積乱雲）や前線付近の風の吹き方をかき込ませるなどして、理解を図ることが大切である。さらに、天気図を見ながら、温暖前線が通過する前から寒冷前線が通過するまでの、一連の気象の変化を実況できるようにさせたい。

# 中3 地歴

## 「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

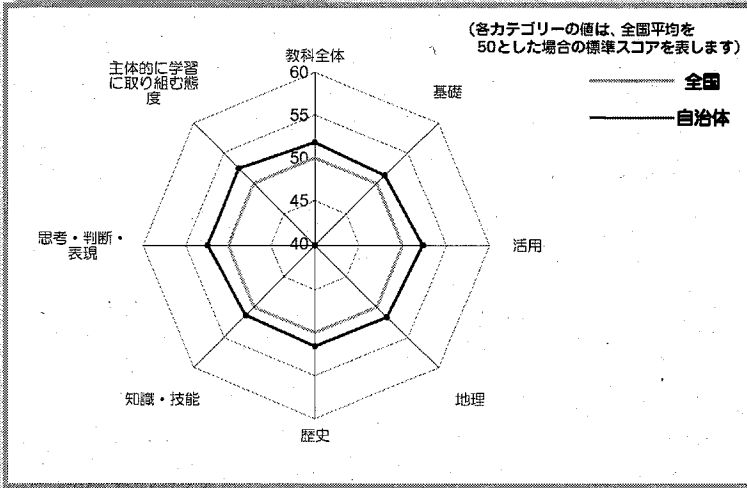
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		64.5	68.3	★
基礎		69.0	71.9	★
活用		54.5	60.4	★
領域別	地理	66.5	70.4	★
	歴史	62.7	66.4	★
観点別	知識・技能	69.0	72.0	★
	思考・判断・表現	54.6	60.1	★
	主体的に学習に取り組む態度	54.5	60.4	★

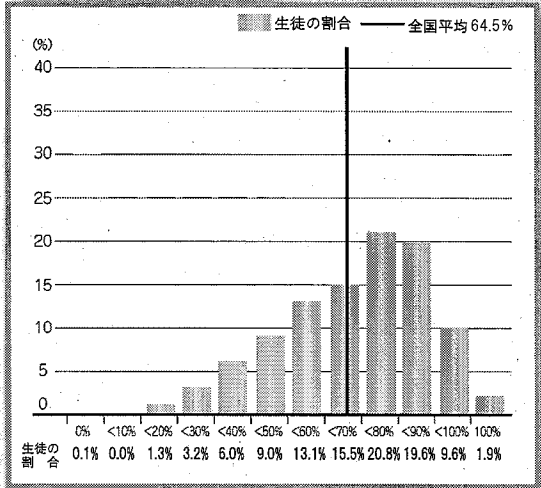
### 分析 コメント

- 中3地歴は、教科全体の正答率が68.3%
- で、全国平均正答率を3.8ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が60.4%
- で、全国平均正答率を5.9ポイント上回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 明治時代

大問6(3)

<ねらい> 大日本帝国憲法について理解している。

全国平均 52.5% 正答率 47.1% 差 ▲5.4 割

**指導のポイント** 「大日本帝国憲法」という用語を記述させる問題である。大日本帝国憲法は、1889年に発布された東アジア初の成文憲法であり、歴史的な意義は大きい。同憲法が、君主の権限が強いという点で日本の政治体制に近いと考えられた、ドイツ(プロイセン)の憲法を手本に作成されたことを理解させたい。授業においては、憲法の主要な条文を紹介し、天皇主権が謳われていることなど、現在の日本国憲法との違いを確認させる必要がある。

### 日本の諸地域

大問2(2)

<ねらい> 阪神工業地帯を理解している。

全国平均 57.6% 正答率 54.2% 差 ▲3.4 割

**指導のポイント** 阪神工業地帯は、姫路から堺、和歌山にかけて位置する、日本有数の工業地帯であることを確認させる必要がある。淀川などの豊富な水を工業用水として利用することで、戦前から繊維工業を中心に発展してきたこと、現在は機械工業が盛んであり、生産額のおよそ4割を機械工業が占めることを押さえさせたい。近年では、大阪湾岸の製鉄所跡地などに、太陽電池を生産する新しい工場やテーマパークなどが建設されてきたことについても触れておくとよい。

# 中3 英語A

## 「思考・判断・表現」が良好である

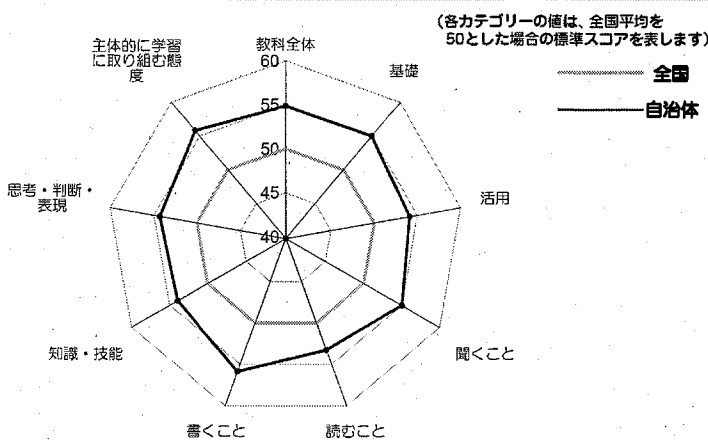
### 正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	
教科全体		63.7	74.6	★
基礎		63.7	74.4	★
活用		63.9	75.0	★
領域別	聞くこと	69.2	79.1	★
	読むこと	66.2	74.0	★
	書くこと	54.4	71.0	★
観点別	知識・技能	68.4	78.1	★
	思考・判断・表現	54.8	68.0	★
	主体的に学習に取り組む態度	61.6	74.4	★

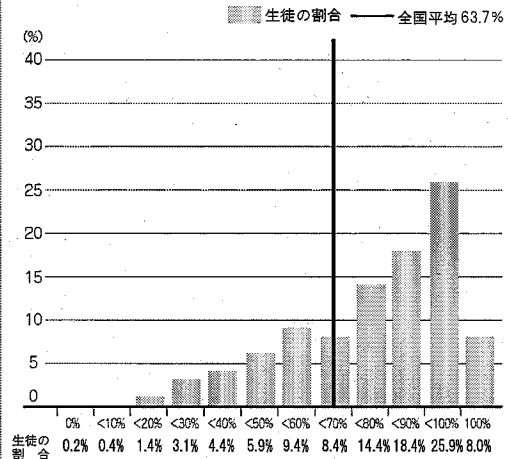
### 分析 コメント

- 中3英語Aは、教科全体の正答率が74.6%
- で、全国平均正答率を10.9ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「思考・判断・表現」が68.0%で、全国平均
- 正答率を13.2ポイント上回った。

### カテゴリ間の比較



### 正答率度数分布



## ★ 課題となる小問 ★

### 語形・語法の知識・理解

大問6(1)②

<ねらい> 対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(過去進行形)

全国平均 65.1% 正答率 65.2% 差 0.1 割

**指導のポイント** 本問のような語形・語法の問題において正答が得られないのは、日頃からの練習の不足を意味している。文法導入が終わった後は、練習(パターンプラクティス)が不可欠である。現在形の英文を現在進行形に直し、過去進行形に直すという一連の流れを、パターンプラクティスによって何回も口頭練習させる必要がある。口頭練習の後は、ドリル問題を使用し、書くことによって、その表現が定着しているかを確認することが大切である。

### 長文の読み取り

大問8(3)

<ねらい> 英文を読み、その要点を捉えている。

全国平均 79.8% 正答率 80.7% 差 0.9 割

**指導のポイント** ホームルームで、ブラウン先生が呼びかけている内容を把握する問題であり、先生の話の一部ではなく、全体を通して考える必要がある。ブラウン先生が呼びかけている内容の主要な部分は、最後のパラグラフに書かれていることから、最後までしっかりと読むことが要求される。授業においては、長文を読んだ際にサマリーを書かせるなど、要旨をつかむ訓練をさせるとよい。パラグラフごとに、その中心となる話題は何かを日本語で書かせたり、英文の中からトピックセンテンスを選ぶような練習をさせたりすることも有効である。